





図 2 合系系統の稈長と不稔歩合

級の基準品種である「コシヒカリ」と比べると、不稔歩合は同程度かやや高いものが多い、一部はそれらより不稔歩合がやや低かった。

冷水処理を行った合系系統の稈長と不稔歩合の関係を図 2 に示した。稈長はほとんどの系統が「トヨニシキ」より長かった。「農林24号」より不稔歩合が低い系統はいずれも稈長が90cm以上で「農林24号」より長い系統であった。

#### 4 考 察

冷水処理で耐冷性の検定を行う場合、稈長の長い系統ほど低温障害の危険期にある幼穂の位置が高いため冷水処理が十分でない恐れがあり、この検定方法では稈長がおよそ90cm以上の系統は不稔歩合が低めになり検定精度が低下すると著者らは考えている。

供試した合系系統の不稔歩合はいずれも「トドロキワセ」より低く、稈長が90cm以下の系統も多かったため、それらの耐冷性程度はほぼ「トドロキワセ」以上の水準にあると考えられる。しかし、「農林24号」や「コシヒカリ」より不稔歩合が低い系統はいずれも稈長が90cm以上の長稈であるため、これらが「農林24号」や「コシヒカリ」より耐冷性が強いといえるかどうかは疑問である。

以上の結果から、今回供試した合系系統の穂ばらみ期耐冷性は、全体的には「トドロキワセ」を上回り、一部は寒冷地域の最強級の品種である「農林24号」と同程度と考えられるが、最強の系統が「農林24号」より強いとは言い切れない。これらの合系系統の雲南省における耐冷性評価はほとんどが中～弱で、強い方ではない。したがって、今回調査した系統より耐冷性が強い系統が育成される可能性は十分あると考えられ、共同研究の今後の成果が期待される。